２０２２年（令和４年）　１１月２日　水曜日

デーリー東北　１０面　掲載

石の妖精と遊ぼう☆

アートイズと学ぶ　育てるアート

連載「アートイズと学ぶ　育てるアート」では、八戸市の現代芸術教室「アートイズ」の講師に、子どもがアートに触れる大切さや、保護者はどのようにして子どもの芸術活動を見守るべきかをアドバイスしてもらいます。

※毎月第１水曜日掲載

準備するもの

＜材料＞
- 目玉シール
- アクリル絵の具
- 装飾アイテム（シール、スパンコール、マスキングテープ、ポンポンなど）

＜道具＞
- 油性ペン
- 筆
- パレット
- 筆洗バケツ
- 木工用接着剤
- 両面テープ

作り方

見立ては子どもの得意技

夜空の星が閉じ込められているような石。白いレース模様に覆われた石。石の一つ一つには、驚くべき造形の妙が秘められています。宮沢賢治は子どもの頃から「石っこけんちゃん」と呼ばれるほどの石好きで、鉱物学者になることを夢見たそう。「きれいなものならば岩でもなにでもたべれるのだ」と書いたように、チョコレートやジャム付きのクッキーのように見える石が確かにあります。石の形や模様から、人や動物、自然の景観を見いだす「見立て」は子どもの得意技です。

海、山、川、公園、道端など、足下に注意してみると、いろいろな石と出会えます。すべすべの丸い石や、こつごつした石、面白い形の石、赤い石、白い石、長い石…。手や足で触れて、違いを感じてみましょう。じっくり観察したら、お気に入りの石を選んで早速制作です。何の形に見えるかひらめいたら、アクリル絵の具やペンやシールで石を変身させていきます。

鮮やかなピンク色になった石、目を付けた石、テープやシールでおしゃれにした石…。ただの石が、命を吹き込まれたかのように、石の妖精に大変身！　最後に、完成した石の妖精たちをお気に入りスポットに連れていきましょう。

身近な石で楽しめる石アート

養老孟司氏は、ポストコロナ時代は「対人の世界」ではなく「対物の世界」を生きようと述べています。自然を相手にすると「まだこんな世界があったのか」と新たな発見をします。自然は刻々と変わっています。奥が深く切りがないから面白く、考える力が磨かれていきます。先の見えない時代だからこそ自然と対話し、変化を楽しみ心ひかれることに挑戦しましょう。

プロフィル

佐貫巧（さぬき・たくみ）
1982年、静岡市生まれ。多摩美大卒、東京芸大大学院修了。現在、八戸学院大短期大学部幼児保育学科准教授。2014年より八戸圏域で現代芸術教室「アートイズ」を主宰し、アートを通して少しでも生きやすい世の中をつくろうと活動している。おいらせ町在住。

現代芸術教室 アートイズ

アートイズのHPはこちらから

デーリー東北新聞社提供